

やはり村祭りでされている黒獅子でございました。やはり遅ればせですが、今、PRしております。平成24年度におきましては、5月の初旬から9月の中旬まで、44社で、延べ、重なりますけれども、73日あります。これもやっぱりこれからの目玉として十分PRに努めていきたいと考えております。以上です。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 ぜひ現場のお祭りの雰囲気、ムード、そしてお神酒も酌み交わしながら、地元の地域の人と交流なり触れ合いをしてもらうことから、私は観光客がまたリピーターというか、してもらえる非常に大事な資源だなというふうに思いますので、ぜひその辺は最重要課題としてこれから活用いただきたいと思ひますし、二つ目の水の問題です。長井は水が非常に豊富で、水の観光、水を中心にしたまちづくり、観光をしていくというふうなことでありますけれども、所管については農業用水は農林なり建設なりまちづくりなりというふうなことで、さまざまあるかと思ひます。ただ、残念ながら、長井では農業用のかんがい用水の権利はあるわけですが、生活用の権利はないんですね。これは大きな心配事だなというふうに思うんですが、その点、これからの長井の水のあり方について、権利等、市長、どういうふうに見解を持っておられるのか、最後にお聞きしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。簡潔にお願いします。

○内谷重治市長 各、今、町内の中央地区の意見交換会などでも水をもっと流してほしいというふうなお話、要望あります。ただ、委員がご承知のとおり、野川土地改良区さんのほうから農業用水をまちなかに入れていただいている実情がありまして、水の水利権そのものは国土交通省、長井ダムのほうで全部管理しておりますので、そういった意味では、量をふやすというのはなかなか難しいというふうと考えております

ので、今後、野川土地改良区とやはり協議した上で、できるだけ地元の要望に応じていきたいと考えているところです。

○5番 小関秀一委員 どうもありがとうございました。以上で終わります。

○安部 隆委員長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午後 0時03分 休憩

午後 1時00分 再開

○安部 隆委員長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

なお、14番、大沼委員が着席いたしましたので報告いたします。

### 梅津善之委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位9番、議席番号2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 予算総括も私で一番最後になりましたけれども、今までさまざま委員の方がお聞きになったこととかなり重複する点もございますので、確認を含めて答弁いただきたいものだなと思ひます。

では、都市再生整備事業の観光交流センター、かわと道の駅のことについての同じくにして建設が予定されている直売所、物産館及び農産加工施設や農家レストランの考え方なんですけれども、今までの話でありますと、直売所、物産館は今回の設計の内容に場所と建物も含めて建設の予定がなっていて、農産加工施設やレストランの考え方については、また別の予算を含み、さまざまな含みのある答弁がなされていると思

うんですが、その辺、市長から確認の意味でお願いします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えいたします。

何度かお話をさせていただいておりますが、機能的には、今、こちらで必要だということで今回の事業で考えておりますのは、休憩施設部分として駐車場、トイレ、それから無料休憩所等々、それから情報発信の施設ということで、道路案内所と、それから観光案内所、またできれば舟運文化とか、長井のいろんな行事、例えば黒獅子とか、これは観光にも入りますけども、あやめとか、まちなかの歴史的な町並みとか、そういったものを紹介するスペース、あと地域の連携施設ということで、農産物の直売所、それから物産館等が考えられるんじゃないかと、そこをまず今回は考えております。

委員からありました農家レストランとか、あるいは農産加工施設、こういったものについては、市が直接事業主体になるべきものではないというふうに考えていますので、その辺は、例えば農家の団体でしたいとか、あるいは農協さんでしたいとか、そういったところなども基本計画をつくる段階でいろいろ意見をいただいて、前提条件をどうするかということを決めてからそれらは検討されるべきものだろうというふうに思ってます。ただ、そこだけでなくて、やっぱりいろんなものがあつたほうが良いというふうに当初考えておりましたので、そういったことを申し上げましたが、シンプルなほうが良いんだということであれば、それでも良いというふうに考えております。そこは検討委員会、予算をお認めいただきますと、早速1月に施設の内容を、計画を検討する委員会などを立ち上げる予定でおりますので、そこにお諮りして、いろいろ意見を聞いて、決定すべきじゃないのかなというふうに考えております。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 直売所、物産館に関しては、今回の前にも検討というか、入っていると、そのほかのものについては検討委員会も含めて今後の検討だという認識で、私もこれはいいと思うんですけども、先ほど来、午前中の高橋孝夫さんの意見の中にもシンプルな物産館という、身の丈に合った考え方ということも当然わかるのでございますが、やっぱり中身の、直売所であるとか物産館の運営の仕方なり、それは地場産もかかわり合いながら、農家の人もかかわりながらできればいいんだということであると思うんですけども、物ができる前に具体的にそういうこともきちっと形を固めた中で進めていくような方向のほうが私は非常にわかりやすいと。それも多分、市長は、今までの答弁でありますと、今回の予算を認めていただいた上で検討していくんだということの考え方ではあると思いますけども、そういうことも、むしろそういうことのほうが、何ていうかな、かかわりある団体とか、そういった方を大きく巻き込んで進めていくことのほうが重要にされると思いますし、その後も何も、考え方を詰めていくことのほうがよいかと思うんですが、その辺はやっぱり考え方は変わりませんか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津委員がおっしゃることもよくわかります。今回は、まず、菜なポートという市内の農産物の直売所の、何団体かあるわけですが、五、六団体あるわけですけど、そのうちの三つの団体を中心としてまず、一つの核をつくったわけで、その人たちを中心という考え方ももちろんあるわけですけども、その際には広く市民の皆さんからいろんなことで意見をいただかないと、やはり市でやるわけですから、その方たちが自分たちでやりたいと、例えばやり方としては、白鷹町のどりいむ農園のようなスタイルのやり方もあると思うんですね。ただ、今回の場合はそういった形とちょっと違ってお

りまして、農家側からの要求にこたえてつくるというよりも、長井市全体のいろんな団体からの要望でかわの駅と道の駅、そういったものの要望でまず、今回の都市再生整備事業でそういったものをつくるべきではないかというところから来ておりますので、そうしますと、梅津委員おっしゃるように、まず市民の皆様、いろんな団体の皆様からの意見をまとめて、そして施設の概要を形成していったらいいんじゃないかということはごもっともですが、それを実はこれからやるわけですから、確かに先にそういったことをやったほうがいいのかもかもしれませんけれども、今回の事業はちょっと変則ですが、予算のいわゆる基本計画、基本設計、そこをお認めいただければ、その予算をつくるということで話ができるわけですから、鶏が先か卵が先かというみたいな議論になってしまうんですが、そこは私は、確かにできれば話し合いからして、じゃあ何かつくろうとなった場合、最終的に道の駅だったというのが一番理想なんでしょうけれども、このたびはそういったことでなくて、できるだけスピーディーに、この厳しい経済状況の中で何かを、まちを変えていこうということでの一つの活性化の起爆剤として考えておりましたので、ちょっとそここのところは手順が変わったということで、私は同じような内容だと思っております。ですからそここのところはいろんな団体の皆様から意見を聞いて、その施設の内容も含めて、どういったものにしたらいいかということでご議論いただければと思っております。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 市長も今、卵が先か鶏が先かという話もございましたけれども、全くそのとおりで、これはどっちがいいとか悪いとかということが決してあるとかないかとは思いますが、私はそっちのほうが先でないかなんていう、頭の中では思ってます。

先週の、今週でしたね、日曜日に、妻と「あ・ら・伊達な道の駅」というところに出かけてまいりました。行ったことなかったのですが、どんなものかなと思ひながら、午後から出ていったので、もう到着したのは夕方、夜になるちょっと前ぐらい、暗くなっていたんですけども、寒い日にもかかわらずたくさんのお客様がいて、にぎわいというか、条件的にもすぐれているというのもあると思ひますが、見てまいりました。非常にいい設備だなと思ひてきたんですけども、創業をして11年だそうです。11周年とかというのがどおんとかかっておりまして、活気のある道の駅だなと思ひてまいりました。

それぞれ入ってみて、やっぱり工夫してあるところがあるんですよ。第一にロイズという有名なチョコレートメーカーというか、入ってまして、何もそこでつくったわけではないんですけども、そこにはたくさんの人ばかりがあつて、お土産なり、買う人がいらっしゃいました。奥には直売所もあつて、地元の野菜類なり花なんかもたくさん置かれてまして、まさににぎわいづくり、反対のほうに行けばレストランもあつて、すごくいいなと思ひて見てまいりましたが、47号線沿いで一番にぎわうときはいつごろですかなんて定員の方に聞いたら、この辺は紅葉の時期が物すごくたくさん人がいらっしゃるんだなんていう話を聞いてきました。十分人もいたんですけども、きょうは少ないほうですよなんて話までさせていただきました。

ある私が知ってる業者の方が、いつもそこを回って私のうちに集金に来たり、タイを届けたりとということで来るんですけども、当初はすごかったよという話をお聞きしてまして、最近どうだねなんていう話を聞いたら、やっぱりなれるとというか、道の駅がたくさん出て、なかなか農産物も以前よりは苦しいんだなんていう話までお聞きしました。

やっぱりどこにでもあるものも、長井にもあ

っても私はいいかと思うんですけども、そうでなくて、長井は長井らしさのあるものを地域としてつくっていくということが大前提にあって、そうした上で道の駅でも俺は何の差し支えないんでないかなんていう考えを持っています。これは私、それは個人の考えですし、それはシンプルなものでよければそれもそれでいいかと思いますが、長井らしさのある道の駅をつくっていくには、決して場所なり物を先につくるのではなくて、人や、そこにできる産物なんかを育てていくほうが私は先ではないかなという考えを持っています。その辺の考えは、市長、いかがですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津委員がおっしゃるとおりだと私は思っています。やっぱり順番が少しずれてしまっているんですが、来年から取り組む厚生労働省の実践型地域雇用創造事業の中で、これは昨日の予算総括の中でお話ありましたけども、特に観光に関しての人材を育成したり、あるいは新商品とか、名物とか、食べ物も含めて、お土産も含めて、そういったものなども開発できるようなソフト事業を3年間やろうと。そうしますと、ちょうど27年に順調にいけばオープンできるのではないかなと思っておりましたので、それに間に合わせていろんなものができるんじゃないかというふうに考えたところです。普通、ソフト事業をやる場合は、3年なんてしないで1年か2年で、例えば最近ですと、三ツ星弁当を観光協会の女性部でつくったりとかして、それは1年でつくるわけですね。それをつくって、そのときにあやめの時期とかつつじの時期とか振る舞うんですが、やっぱりその後、続かなくて、1年、2年でなくなってしまおうと。ですから、そういったところを、ソフトも大切なんですけど、ソフトとハードというのはできればどこかで交わるようにしていくべきだなと思ってまして、今、梅津委員がおっしゃったように、や

っぱり一番大切なのはそこからいくべきなんですけど、長井の場合は常時観光客が余りいらしていないということですから、その辺を、一番実験店舗としていいのは、道の駅が287号沿いにあるということで、今の菜なポートは菜なポートで市民の皆さんに親しんでいただけてますが、そういった試みをするることによって、また一つちょっと違った要素も出るのかなというふうに考えているところです。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 市長の考え方も十分わかりますけども、やっぱりこういう、何ていうかな、長井市にとって重大な事業だと私は思っています、非常に。それを早々に進めていくんだということも十分わかりますが、じっくり市民の意見を聞き、育てるものを育ててからでも十分私は遅くないがなと思っております。今回、認めるか認めないかは別にしても、まずこの提案された事業をもっと市民レベルで話していく機会を持っていったほうが私としてはいいのではないかなと思っておりますので、ぜひ市長にもご検討いただきたいものだなと思っております。

続いて、第2点目なんですけども、シルバー人材センターの場所が今回の一応予定地にあるわけなんですけども、このシルバー人材センターというのは市で建てたものなんでしょうか。この辺をちょっとお聞かせいただきたいんですけど。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

シルバー人材センターでございますが、土地と建物は市の所有になっております。建物については、平成7年に、5月に購入しております。これは以前は山形県の企業局の長井集中制御所という建物を転居に伴って譲り受けたものということでございます。あと土地については、平成12年の3月に購入、同じように企業局から購入しているという状況でございます。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 今の話ですと、企業局から譲り受けたということなんですけども、この建物自体は市で購入した建物という認識でいいかと思えますけども、補助金とかそういうことは、この建物には何も入ってないんでしょうかね。この辺はどうでしょうか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お尋ねの補助金でございますが、これは補助金を使わせていただいて、高齢者の就業に関する事業の円滑な実施を図るということで、高齢者労働能力活用円滑化事業補助金というものを頂戴して購入しております。購入額が約3,700万円ぐらいでございまして、うち補助金が結構高くて、3,500万円ぐらいいただいているということでございます。補助金額が1,700万円の、県の市町村振興資金の貸付金を残額は借りて、その後、減収補填債ということで、トータルで3,765万7,255円で購入しているということでございます。一般財源も8万円ほど、それからシルバー人材センターのほうでも127万円ほど出していただいているというような状況でございます。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 助成金を受けて購入したということではございますが、平成7年、12年ということなんですけども、補助金を受けて建てた建物は、今、24年なんですけども、あと二、三年あるわけですが、壊して建てかえてもいいというふうにもうなってるんでしょうかね。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 補助金を一部やはり返還する必要があります。1,700万円補助金いただいているんですが、これは耐用年数、建物自体が昭和55年の建物でございまして、その残の耐用年数分を補助金として返還しなきゃいけないということで、金額にして600万円前後ぐらいになるのではないかと推測されます。ここはお返しするというので、市が使うということから、お

認めはいただけるというふうに思います。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 建物のほうはじゃあ補助金が入っているもの、若干返還しても、取り壊ししてもいいという認識でいらっしゃるということですね。

あと、シルバー人材センターの相手方というか、営業していらっしゃるのか、そこの協議についてはどのようなふうになっていらっしゃるんですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まだ具体的に決定してませんので、話は事務方できちっとはしておりません。理事長とかとこういったことで考えてるということは話してありますが、移転先も含めて、こうします、こうでどうでしょうかということまではまだ。というのは、具体的に移転などについてもご検討いただくのはやはり2年後、3年後ということでございますので、今回まず事業に、例えばある程度どこかお認めいただいたら相談すべきことだろうと、まだお認めいただいておりますので、お認めいただいたら具体的にまず相談しなきゃいけないということで、まだ具体的な話はしていないところでございます。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 11月16日の比較表で、移転費用が入っていないかなんていうことを一つ思ったのと、例えば解体するときの費用なんかも計算とかがっているのはしていらっしゃるんですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 解体の費用等々については、概算で、以前まち・住まい整備課長がいろいろ、梅津委員じゃなくて、違う委員の方の質問に答えておりますが、やっぱりこの建物は2階建てで、それで鉄筋コンクリートということではないんですが、それなりの構造物でございますので、そういったものも勘案して、概算で全体の

取り壊し費用を見ておるかと思います。前回、全協等でお示した内容ですと、土地、周りの例えば旧マークさんとか、そういったところも含めたこちらで考えている用地の買収費用と取り壊し費用で2億5,000万円ぐらいということで、概算でございます。ここについて、ここだけの部分幾らだかということところはちょっと手持ちで、私、資料がありませんが、もし概算でしたら、まち・住まい整備課長のほうに答弁させます。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

長井市所有の建物についても補助対象になりまして、解体費用も全体事業費の中で計上しているところでございます。以上です。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 金額どれぐらいかかるかということ、済みません。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

全協でお渡ししました資料にもありますが、解体費で600万円ほど計上しております。以上です。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 移転するにも当然お金はかかるわけだし、解体するにも当然金はかかるし、さらには補助金の返還もあるということです。ちょっと詳しく調べてなくて申しわけなかったんですが、せっかくそうやって補助金を受けたものを壊してまであそこの位置にというか、シルバー人材センターだけかもしれないけども、こだわる必要はないのではないかなんていう考えもあるんですが、この辺は、市長、どうでしょうかね。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津委員おっしゃるように、できれば更地が一番いいわけでありまして、ですから極力今営業してないところ、使っていないところということで、今の場所がいろんな総合的に勘案して適していると判断したわけですが、ここの建物については、決して新しい建物でもありません。四十四、五年たっておりますので、ごめんなさい。40年ぐらいですね。ですから、面積は、1階が車庫とかになってまして、実は2年前、3年前でしょうか、役員の方が、非常に危険な階段でして、転落して3カ月ぐらい入院して、非常に苦勞されたということで、ほかのお年寄りの方も非常に危険だという、そういうお話などもお伺いしてましたので、ここのところはいたし方ないのかなど。やっぱりできればここも使わなきゃいいんでしょうけども、ここも使わないと全体の面積を確保できないということでありましたので、なかなか更地としてどこも使っていないところというのは、1万平米以上確保するのはやっぱり郊外じゃないと難しいのかなと考えております。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 シルバー人材センターのことについて、もう一つなんですけども、これからだという話が市長からございましたけども、移転先の候補として具体的に何か検討されていることは、市長、ないんでしょうかね。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 やはり相手側の意向もありますので、今の段階で、お認めいただければすぐに相談には行かなきゃいけないんでしょうけども、まだやっぱり仮定、仮定でどんどん先に行ってしまうと、かえって混乱を招いてしまうというふうに思っています。それで、ただ、こちらとしては、例えば適しているのがやっぱり公的な施設だろうということで、2カ所ぐらい考えられるわけですが、一番近くですと旧勤労青少年ホ

ーム、職訓センターと。ただ、ここはスペース的に難しいということであろうというふうに思いますので、置賜総合支庁の西庁舎あたりをお借りできないかなということ、非公式にお借りすることはできますかと、県のほうの置賜総合支庁のほうにはちょっと相談したことはありますけれども、やはりまだシルバー人材センターのほうにどこに行きますかなんていうことも、できればこっちへ行ってくださいということも今の段階ではちょっと、むしろ言うべきじゃないと。ただ、こういうことを考えてますと、その節にはちょっとご相談させていただきたいというように状況だけということで、ご了承いただきたいと思います。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 まだ決まってないということですから、それはしょうがないことかもしれませんが、やっぱり営業している、営業というか、そこで働いている人がいて、当然私も利用しているわけで、何も決まらないうちにここでというわけでも当然なくて、検討しているところがあるということでございますので、それはそれとしてしょうがないかなという考えでおりますが、ちょっと補助金を使って建てたものというか、購入したものを返却しながらという考え方とすればちょっと疑問かなと。市長が言うように、確かに階段は危ないですよ。お年寄りの方が上ったりおりたりするには適切な階段ではないと私も思ってますけれども、考え方として、何ていうかな、補助金をもらって建てたものを壊して移動していくというのは、それはちょっとどうかなというのは思いますけれども、その辺は、市長、どうでしょうかね。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 やはり先ほども申し上げましたけれども、建物を購入させていただいたのが平成7年でありますので、例えば購入して5年とかということだとちょっと無計画ということも

あるかと思いますが、もう既に17年たってるわけですので、やはりそういった変更は当然、古い建物ですから、あってもこれはしょうがないのかなと。ただ、その使う理由と、あと今使っただけでいる団体の移転先が適正なものきちんと確保できるかというところが問題ですし、あとはその団体のほうでご了承いただけるというところだと思います。この辺については、シルバー人材センターは、私も市町村ともいろいろな関係で協力関係にありますので、これはお願いして、何とかご協力を賜りたいと思っ

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 では、やむを得ないという考え方ですから、それも仕方ないかなんていうことで考えさせていただきます。

もう一回最初の話に戻るんですけども、何とも不思議だなというのは、やっていくんだ、直売所でも物産館でもある程度筋道を立てた上で物を建てていくことが私は必要だなと思っておりますし、当然夢や目標は高いところに置いて、いろんな発想なんかはあってしかるべきだと私も思いますが、現実、長井市にとって本当に必要かどうかということも含めて、市民ぐるみのまだまだ議論が足りないのではないかなと、私、個人的には思っております。ぜひその辺も、市長、お考えいただいて、判断させていただきたいなと思いますので、その辺、よろしく願います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津委員のおっしゃることもよくわかります。確かに最近ではこういった施設を、金額的には土地の補償費が高いわけですが、やっぱり6億円、7億円近い事業というのは長井市では最近余りありませんでした。そういった意味では、学習プラザの運動公園もあるわけですが、あれが一番最近では大きいわけですが、それと比較してもそんなに小さいもので

はありませんので、検討委員会みたいなものを設けてどうするかということももちろん必要なわけですが、なかなかご理解いただけなくて、議会の皆様ともいろいろ何度も議論しているのは、この事業の進め方、都市再生整備事業のあり方、これは国の要綱にのっとってやっているわけですが、私ども、今回の反省としては、確かに国のほうでは概算で、概要でお認めはいただくんですが、それを議会にご提案するときにはもう少しみずからたたき台みたいなものを十分に用意して、そしてそれからご議論いただいて、その上で、大体ご意見いただいて、よしとなったところで申請をすべきだったと。それが今回は概要ということで、19億1,000万円の中で、途中で変更できるということなどもあって、ちょっと安易に進めてしまったのかなと、そういった反省があります。ですから、今回のかわと道の駅についてももちろん詳細なものを、数字を上げろと、ペーパーで上げろというものは今用意できませんが、それなりにもくろみ的なものは当然話し合いをしながら進めてきましたけれども、今後の反省として、全体事業なども含めた中身をやっぱりあらかじめ、議会はもちろん、市民の皆様ともっともっと議論しながら進めていかなければならないと、そのように反省しているところです。

○安部 隆委員長 ここで申し上げます。ただいま朝日新聞記者からカメラ持ち込み許可申請がありましたので、許可いたしましたので、ご報告いたします。

2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 私、こう見えて割合内気、素直で、夜も眠れないぐらいに大変だったというか、悩みました。やっぱり、何ていうかな、こういう議案、案件というのが出方は違ってもいつも出てくるというのが、気持ちもちっちゃいので非常に酷だなと自分自身思っております。できればほとんどの方が賛成できるような案で

出してもらいたいなという、これは希望も含めてなんですけども、当然これだけでもめたものも、私たちにも責任は当然あるわけで、やっぱりもう少し、市長、午前中、高橋委員から一旦取り下げてなんていう話もございましたが、そういう考えも、私もそうだと思っておりますし、その辺も考えて検討なされたらいかかかなと思えますけども、その辺はどうでしょうかね、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津委員が新人議員で2年目、丸2年になろうとしているわけですが、いろいろご判断が難しいというのは、私も議員を経験しておりますので、ある程度は承知しているつもりでございます。

あと、梅津委員も選挙の際、いろんな市民の皆様を負託を受けて議員になっておられるわけで、当然自分としての議員としてのテーマなり、あるいは目標、信条、そういったものがあるかと思えます。

私は、市長として、市民の各層、いろんな団体の皆様とやはり数多く会う機会、あるいは意見をいただく機会がございます。そんな中で、何といても今一番大切なのは、今回の衆議院の総選挙と同じように、いかにして経済が低迷している長井で働く場を確保するか、あるいは経済を活性化させて、産業振興を図って、少しでも地域が潤う、そういったことを何とか市のほうでも考えてほしいと。確かに民間の活力というものもあるんですが、民間はやはりここ特に四、五年、リーマンショック以降、非常に厳しい状況だと私は認識しております。ですから民間ができない部分を我々行政が、非常に思い上がりかもしれませんが、少し、何でしょうかね、起爆剤として何かできないだろうかということで、今回はこの事業を考えたところでございます。

前に、もう3年前ですが、県の街路事業、採択してもらってるんですよ、県に。これは長井



の活性化を図るということで、地元が一生懸命だからということで、吉村知事はじめ県幹部の皆さんがそういったことをご判断いただいたわけですからそれをやはり我々長井市としても重く受けとめて、市としても何かしなきゃいけないという判断で今回こういった事業に取り組もうとしているわけですが、確かに委員からありましたように、数々の反省すべき点も多いです。しかし、やっぱり一番重要なのは何かというところを考えていただいた場合、今のままでは何も変わらない。あと、おっしゃるように公共事業の中で、公の施設、古いものがたくさんあります。そういったものも当然これはしていかなきゃいけない。これはこれでちゃんと計画を立ててやるということは何回も申し上げておりますので、ただ、順番としては、そっちも大切けどもこっちも大切だと、公の施設だけが大切で、こちらのほうはしなくてもいいということであれば何も長井は変わらないわけがありますので、そういったチャレンジすることも私は重要なのではないかなと、そのように思っておりますので、ぜひ梅津委員からもご賛同を賜ればありがたいなというふうに思います。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 内谷市長のそのチャレンジというのは非常にうらやましいというか、すごいなという思いは私もあるんですけども、チャレンジする前に、さまざまな段取りであるとか周りのことなんかを鑑みて判断すべきであると思うし、前に進めていくことも、確かにそれは重要なことかもしれませんが、一旦立ちどまって振り返ってもう一回出しても、何も、むしろそのほうの、勇気を持ってそのようなことの判断を市長にさせていただくことも大切なことではないかなと思っておりますが、いかがですか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 何度も申し上げておりますが、

私は、何とかして議会の皆様からご理解をいただきたいということで、今回で4回目ではありますが、丁寧に説明をさせていただいて、できる限りですね、委員の方、議員の方はどういうふうに捉えていらっしゃるかですが、私としては非常に丁寧に申し上げているつもりですし、それから、同じような案件じゃなくて、少しずつ議会の皆様の意見を取り入れて、酌み取って、多くの委員の皆様から賛成いただけるような内容にこの間変えてきております。ただ、これは都市再生整備事業という5年間の国の認定を受けた事業の位置づけからは、やはりある程度の部分までは、ここは何かお認めいただきたいという部分は出しているわけですが、そんなことで、ここで例えば断念するというようなことは、もう少し後の判断になるのかなと思います。

これは賛成いただける議員も、賛成いただけない議員も、どちらも大変だと思います。結局これは市民も見ているし、私は私で責任がありますので、ですからそういった意味では非常に厳しい、つらいです。でもそれをやらないと、逃げていては、我々、行政を預かる者としてはだめだと、一生懸命とにかくお認めいただけるような努力を重ねていきたいということで今回も上程させていただいたわけですので、その上で、ぜひ前向きにご理解を賜ればありがたいというふうに思います。

○安部 隆委員長 2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 十分市長の言うこともわかりますけども、誰もこの議案から逃げて取り下げろなんていうことではなくて、もう一回原点に戻って話し合って前に行きましょうよという話を私はしているだけです。その辺を十分お含みいただいて、ご検討いただきたいと思えます。

これで私の質問を終わります。ありがとうございました。